

## 2. [産業振興について]

大東町会場（久野交流センター）

**Q1：和牛振興について具体的にはどうするのか説明をいただきたい。**

A：さきほど、畜産の振興について質問いただいた。具体的な方策について、このところ子牛価格は持ち直しというか、高めで推移している状況だが、実態としては一方で円安が進行して輸入飼料の高騰があるし、担い手不足、高齢化が進み、畜産農家も減少し、頭数も減少が続いて厳しい状況が続いていると認識している。そうした中でJA雲南肥育センターの縮小もあり、雲南地域、雲南市・奥出雲町・飯南町とJA雲南で組織している雲南農業振興協議会に県を交えて、雲南地域の畜産をどうするか検討している。その中で畜産振興に必要なことと言うと、繁殖頭数の確保、これ以上減らさない、農家も確保していきたいということ、そのためには担い手の方に牛を飼っていただくための施設をきちっと用意するというので、雲南市では吉田に繁殖和牛センターを持っているが、そうした繁殖牛を共同で飼育できるような施設を利用して繁殖経営を行っていただく、こうしたやり方を持って進めていくことを考えている。また縮小になったJA肥育センターをそうした施設として活用するなどして繁殖頭数の維持確保に取り組むことが大事と考えている。一方、雲南市の中で必要なこととしては、経営の中で生産コストを下げる必要がある。先ほど言った円安で飼料の高騰が止まらず収益が上がらないが、地元の稲わらを購入することができる、地元の稲わらを地元の畜産農家で使っていく、そういう体制を早急に構築するため、今年、子牛農家の方と集落営農組合の方との協議を進めていくことにしている。牛の改良についても大切なことであり、個々の農家の方々に自ら取り組んでいただくが、雲南市和牛改良組合が主体となった取り組みについて市として支援は行っているし、引き続き、県の普及部・JAと市で一緒に和牛改良に努めていく。県全体としては、出品対策協議会を次期の全共まで検討機関として残して、それに向けて市も一緒に入って会議を進めていくことを考えている。そうした取り組みをしながら、一緒になって盛り上げていきたい。（産業振興部長）

**Q2：特に企業誘致をどんどん進めてほしい。地元若い人が仕事を求めていることも課題であるし是非お願いしたい。TPPのこともあるが、それにかかわらず、TPPに加盟したら農業はさらに打撃があると想像されるが、それ以前にも既にかなり打撃を受けて農業を手放す人がたくさん増えているし、農村破壊も進んでいる。私は昨年退職したがその年代がたくさんいる。そこで問題になるのが農業振興、生産はもちろんだが、その前に何よりも求められるのは農産物の販売をどうするかということ。グループを作りながら、組織化を図りながら作っているが、販売をやっつかないと振興につながらないということを目にしている。今、産直で我々の年代の人が溢れ返っている。従って、産直で品物が余りはじめているし、安くなり始めている。当然生産面での利益が上がらないのが現状。どう雲南市の農産物を販売していくかが農業の今後の決め手と思う。売って儲かれば誰もが意欲出して生産していくと思う。仁多米も含めて市場価値が低くなっている。販路を設ける、自分たちのお客さんを持たないと農業はやっていけないと思うがどうか。**

A：どう販路拡大するかということは大きな問題と認識している。産直は24年度は雲南全体で6億円を超える売り上げがあった。会員も増加傾向で市内に1,500人くらいおられる。仕事をやめてから農業をされるということで、産直のために農地を使っただけで生産活動に取り組んでいただけることはありがたいと思っている。そのためにも販路の拡大について行政・JAで検討している。JAでは尼崎で産直として定期的に出している。我々としては、高速のつながった広島・関西で次の場所、産直での次の場所というより、店舗で使っただけのような品物を提供できないかということで、あらゆるつてを探って、市長も阪神方面での販路を模索している。また、6次産業化の加工品で有利な販売ができるということも必要。新たな商品を作って売っていきという取り組みで販路拡大を進めているので、またいろいろとご意見をお寄せいただきたい。（産業振興部長）

A：作ったら売れるという安心感がないといけない。昨日・一昨日、京都・神戸・大阪に行ってきた。京都合

同青果では生ものだったらなんでもいい、出して下さいと。なすびはいりませんかと聞いた。京都はなすびで有名なところだが、良さに気づいてないでしょう、出して下さいとのことだった。京都もなすびの生産者の高齢化で品薄となっているようだ。なすびも出しますので話をしている。徳島県上勝町のはっぴビジネス、すごい量を出している。高齢者の方で売り上げ年間2,000万円、量もすごい。生産農家は、山にあるのは宝物、あるものをちぎってきれいにして見栄えよくして出す、それを継続的に、赤や青のみみじ・栗など、年から年中山にあるものを地域の人がグループで、雲南市で言うと地域自主組織のようなグループで取り組んで、四季通じて定期的に出す。要は時期によって多少はあるが、地道な取り組みをされている。雲南市も宝の山ですよ、気づいてくださいと言われた。二次加工品も出したら売れる先を世話しますよ、出して下さいとのことで、飲食店に卸しをする、また提案をしてくださいということだった。量の確保をすれば、小売店・チェーン店での売り上げが期待できる。最終的に消費者をいかにつかむかが、一番大切だと思っている。(市長)

**Q3：清嵐荘について、方向性決定しますとあるが、どういう考えがあるか、どういった計画か教えて欲しい。**

A：清嵐荘は建築後年数がたっている。昨年末コンクリートの強度を調査したが、古いから強度がないことが判明した。今後修繕するか建て替えるか、どちらかをしないと使えないという考えを持っているが、まだ検討中である。いずれにしても市として湯村温泉は一定の宿泊できる施設として、市の観光の中で大きな役割を果たすと思っているので、何らかの形で進めていきたい。今後の対策をどうするか、9月議会でお諮りしながら方向性を定めていきたい。(産業振興部長)